

施工業者様用

〈施工説明書〉

株式会社 **ウッドワン**

〒738-0023
広島県廿日市市下平良1-12-1

[商品相談窓口]

フリーダイヤル
0120-813-331

[受付時間] 平日8:30~17:00

[休日] 土日・祝日・GW・年末年始・夏期休暇

無垢フローリング

床暖房対応

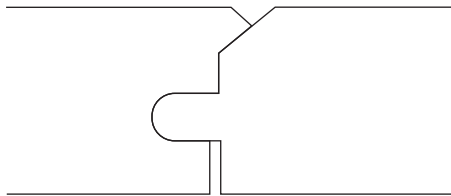
非床暖房対応

捨て張り工法用

このたびはウッドワンの商品をご採用いただき、誠にありがとうございます。
施工前にこの施工説明書をよくお読みいただき、安全に正しく施工されるようお願い致します。
製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害・財産への損害を未然に防止するために、「安全上のご注意」をよくお読みください。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ずお守りいただき、内容をよく理解して正しくお使いください。

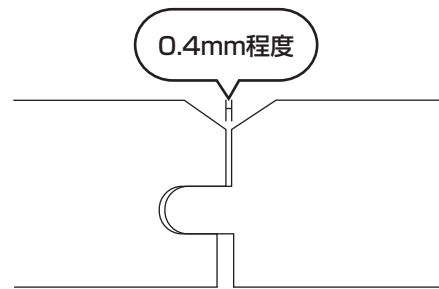
1. 床張り施工の注意点

床暖房施工の場合



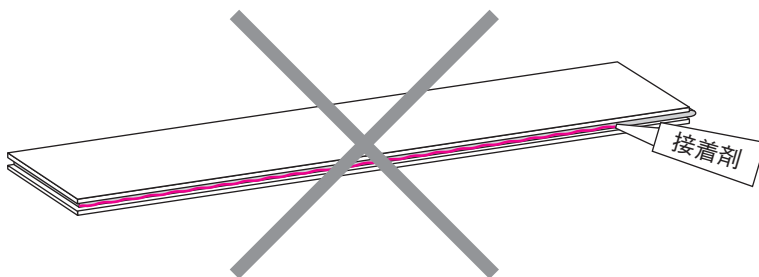
軽く突く程度にサネ接続してください。

非床暖房施工の場合



同梱のスキマゲージを使用してサネ同士の接続部分に0.4mm程度の間隙を設けてください。

2. 長辺サネ接続部分への接着剤塗布の禁止



長辺サネ接続部分に接着剤を塗布すると、膨張、収縮により床材の割れなどが生じるおそれがあります。

3. 必ず指定接着剤・釘の併用施工をおこなってください。

4. 床暖房施工の場合は、接着剤・釘の使用できる床暖房システムであることを確認してください。

安全上のご注意

安全に正しくお使いいただくために
必ずお守りください



注意 施工に際して以下の注意が守られない場合、施工に従事される方の傷害並びに住まわれる方の傷害または財産上の損害が生じるおそれがあります。確実にお守りください。

 禁止	<p>・屋内専用。 屋外や浴室に使用すると、湿気、雨濡れ、強い太陽光などにより腐れ、割れなどの劣化が進む原因となります。</p> <p>・接着剤・釘の併用施工ができない床暖房は使用しない。 床暖房対応の床材を使用して床暖房を施工する場合は、必ず当社指定の接着剤・釘の併用で施工してください。(詳しくは床暖房メーカーにお問い合わせください。)</p> <p>・油性・水性ワックスの使用禁止。 油性・水性ワックスはすべりやすくなる為、当社推奨の樹脂ワックスを使用してください。</p> <p>・ピアノ・大型冷蔵庫等重量物の直置き禁止。 床材が破壊するおそれがありますので必ず補強対策をし、インシュレター等を使用してください。</p>	<p>・自然塗装製品は水分厳禁。 自然塗装製品をお手入れする際などに、水は絶対に使用しないでください。毛羽立ち、白化、シミ等の原因となるおそれがあります。</p> <p>・長辺サネ接続部分への接着剤の使用禁止。 長辺サネ接続部分には接着剤の塗布は絶対に行わないでください。</p> <p>・根太上の直接施工の禁止。 直接根太上に施工すると強度不足のため床材が破損することがありますので、必ず根太上に厚さ12mm以上の合板を捨て張りしてください。</p>
 必ずおこなう	<p>・床下換気口の設置。 湿気がこもると床材が腐朽する原因となります。</p> <p>・床下収納庫への使用時の補強。 床下収納庫の天板に直接フローアを使用することはできません。必ず補強を行ってください。</p>	<p>・開梱後は換気を行なう。 本製品はホルムアルデヒド・VOC(揮発性有機化合物)対策品です。ただし、新築・リフォーム直後や夏場など高温の環境下ではホルムアルデヒド・VOCが室内に滞留しやすく、健康被害につながるおそれがありますので、施工中、使用中は適宜換気を行うようにしてください。</p>
注意!	<p>・パネルの釘打ち位置注意。(床暖房を使用する場合) パイプなどの釘打ち禁止部に釘打ちしないでください。水漏れや故障の原因となります。</p> <p>・フロアコーティングは推奨していません。 推奨ワックスをご使用ください。 (フロアコーティングは、はがれ・床鳴り等の不具合を発生させることがあります。)</p>	<p>・適合発熱パネルの確認。(床暖房を使用する場合) 適合しない発熱パネルを使用すると荷重による破損や踏み鳴り・または事故の原因となるおそれがあります。</p>

※床暖房を使用する場合は、必ず床暖房施工に対応した施工方法をお守りください。
また床暖房を施工する場合は、必ず床暖房に対応した床材を使用してください。

1 施工の前に確認してください。

① 開梱

梱包を開いたら数量に不足及び損傷等の問題が無いかどうかを確認してください。
当製品は木質製品です。輸送中・施工中の水漏れは厳禁です。開梱後、製品に水漏れ等の不具合があった場合には必ず施工前にお買い求め店または弊社までご連絡ください。
また開梱後は速やかに施工してください。

② フローアの仮並べ

フローアの表面には天然木を使用しているため、色や木目・溝部分に多少の違いが出る場合があります。施工前に全部の梱包を開いて色合わせをしてください。
極端な不具合などがありましたら、施工前にお買い求め店または弊社までお申し出ください。
施工後のお申し出には応じかねます。

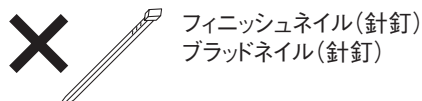
③ 工具の準備

■釘仕様



フローアネイル 38mm以上
接着剤付きフローア用ステープル38mm以上

※石膏ボードを下地に使用する場合に石膏ボードの下に厚さ12mm以上の下地合板を施工し、下地合板まで届く長さの接着剤付きフローア用ステープル(足長48mm以上)、またはフローアネイル(長さ48mm以上)をご使用ください。



※フィニッシュネイル・ブラッドネイル(針釘)や通常の釘類は使用しないでください。

■指定接着剤

メーカー	品番	接着剤タイプ
ウッドワン	捨て張り/根太工法用接着剤 ZX0223	ウレタン樹脂系接着剤 (床暖房・非床暖房共用)

その他推奨指定接着剤

メーカー	品番	接着剤タイプ
(株)セメダイン	フロアロック110	変成シリコン樹脂系接着剤
コニシ(株)	ボンドKU928C-X PX280	ウレタン樹脂系接着剤 変成シリコン樹脂系接着剤
(株)オーシカ	セレクトィMS-330	変成シリコン樹脂系接着剤
(株)日本アーク	アークタイト	変成シリコン樹脂系接着剤
積水フラー(株)	床根太・床仕上げ接着剤#55-S	変成シリコン樹脂系接着剤
アイカ工業(株)	JW-400NF/K/K4(床棟梁) SE-770(爽床)	ウレタン樹脂系接着剤 変成シリコン樹脂系接着剤

※上記の接着剤からお選びください。

※酢酸ビニル系(白ボンド)・アクリル系エマルジョンなどの水性系接着剤は使用しないでください。

2 施工手順

① 下地の確認(施工)

(1) 十分な乾燥の後、施工する

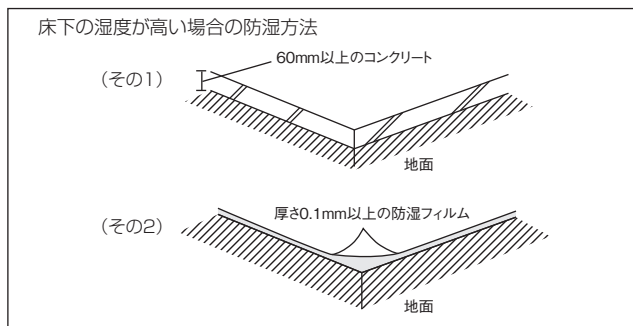
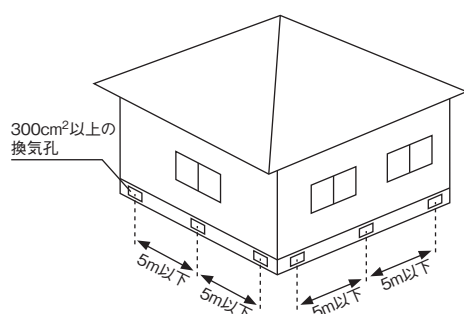
捨て張り施工の場合や、RC構造などの床下が完全防水の場合、下地材・根太・床下等がひどく濡れた状態で施工すると、施工後の床材に伸びや膨れ・変色やカビの原因となるおそれがあります。床下地や床下が雨で濡れると乾燥するまでに時間を要します。**屋根工事が終わるまではビニールシート等で濡れないように保護してください。**

(2) 防湿のために風通しをよくする

床下換気口の位置と数は建築基準法令に従ってください。

(外壁の床下部に壁長さ5m以下毎に、300cm²以上の換気孔設置)床下の湿度が特に高い場合は、地盤全面に厚さ60mm以上のコンクリートの打設、または厚さ0.1mm以上の防湿フィルムを全面に敷きつめる等の防湿処理をおこなってください。

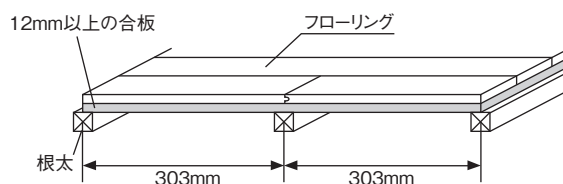
一般住宅 換気孔の適正配置(参考)



(3) 根太施工

根太には反り、ねじれの無いプレーナーがけした45mm角以上の乾燥材(含水率14%程度)を使用してください。

根太間隔は303mmピッチとしてください。

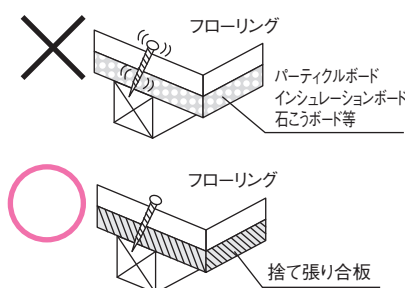


(4) 捨て張り合板

捨て張り合板専用の床材ですので、直接根太上に施工すると強度不足のため破損することがあります。根太の上には下地合板として**厚さ12mm以上、含水率14%以下**のものを使用してください。

※下地にはパーティクルボードや石膏ボードは使用しないでください。

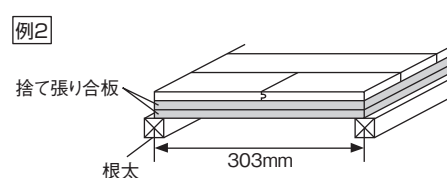
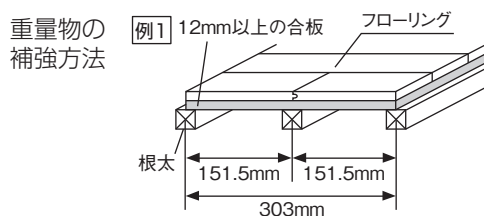
床下(コンクリート)等はコンクリート含水計で含水率10%以下であることを確認し、施工をおこなってください。含水率が高いと接着不良やフローアの反り、突き上げ、変色、カビなどが発生するおそれがあります。**また根太と合板は接着剤・釘併用施工としてください。**捨て張り合板は突きつけて施工せず、2mm程度継ぎ目をあけてください。その際、捨て張り合板の接合部の段差ができないように注意してください。



(5) 重量物設置の場合の補強処理

重量物を設置する場合には根太間隔を151.5mmにする(例1)か、12mm以上の下地合板を2重に捨て張りして(例2)補強してください。

※発熱パネルの耐荷重についてはパネルメーカーにお問い合わせください。



床暖房を施工する場合

小根太付き温水マットの場合

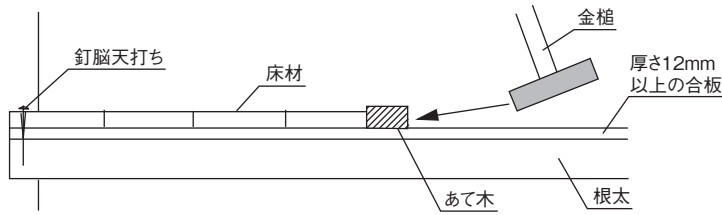
- 小根太付き温水マットとフローアの適合を確認したうえで施工をおこなってください。
- 小根太とフローアが直交するように割り付けてください。
- 小根太付き温水マットは各メーカーの施工要領に従って施工してください。

発熱パネルの場合

- 発熱パネルとフローアの適合を確認したうえで施工をおこなってください。
- 発熱パネルは各メーカーの施工要領に従って施工してください。
- 発熱パネルの周辺の副資材(合板等)との段差が1mm以下になるように仕上げてください。
- 根太間、または根太下には発熱パネルメーカーが指示する断熱材を設置してください。

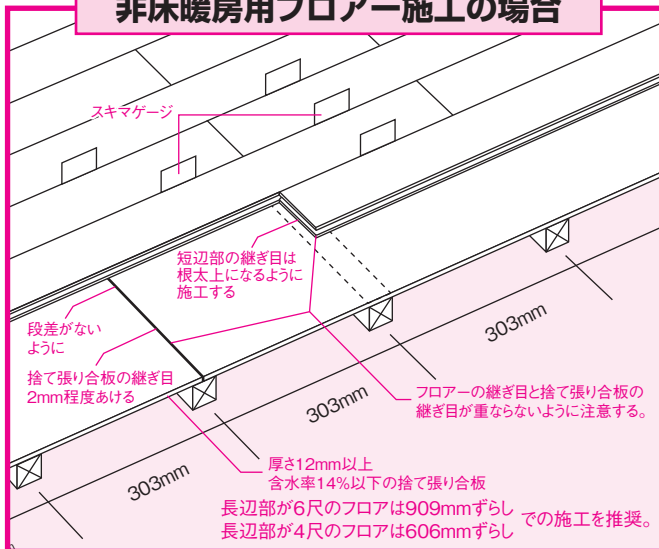
② フロアーの割り付け

- フロアーの短辺部のサネ接続は根太上になるようフロアーの割り付けをおこなってください。
- フロアーは根太と直交するように施工してください。
- ※捨て張り合板の継ぎ目とフロアーの継ぎ目が重ならないように注意してください。



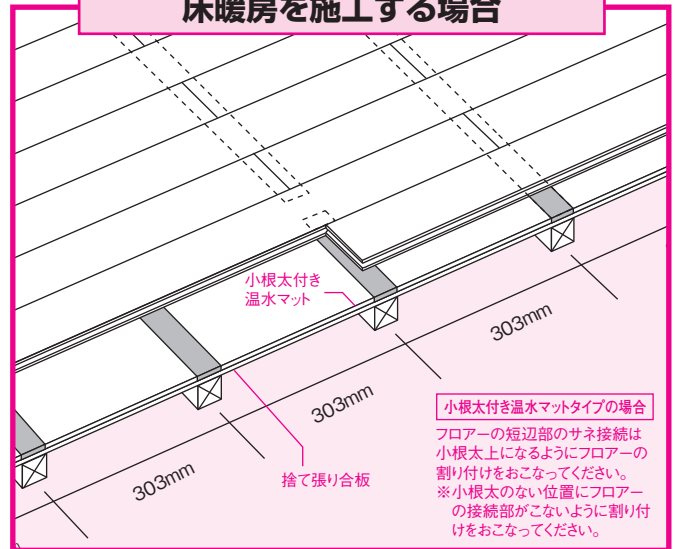
図のように端部の床材は、釘を脳天打ちで完全に固定してから行ってください。張り施工に際しては、床材の端材等を当て木として使用し、サネを直接金槌で打撃しないでください。

非床暖房用フロアー施工の場合



長辺部が6尺のフロアーは909mmずらし
長辺部が4尺のフロアーは606mmずらしでの施工を推奨。

床暖房を施工する場合



小根太付き温水マットタイプの場合
フロアーの短辺部のサネ接続は小根太上になるようにフロアーの割り付けをおこなってください。
※小根太のない位置にフロアーの接続部がこないように割り付けをおこなってください。

⚠ 非床暖房用フロアー施工の場合の注意

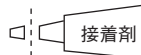
無垢フローリングは吸湿による膨張が大きいのでサネ同士のジョイント部はスミゲージまたは名刺等を用い0.4mm程度の隙間を設けてください。又、木口のジョイント部もきつく締めつけないで緩めに施工してください。(スミゲージが同梱されています。)

⚠ 床暖房施工の場合の注意

無垢フローリングは乾燥により隙間が出ることがあります。施工時にはかるく突く程度に施工してください。木口のジョイント部もきつく締めつけないで緩めに施工してください。

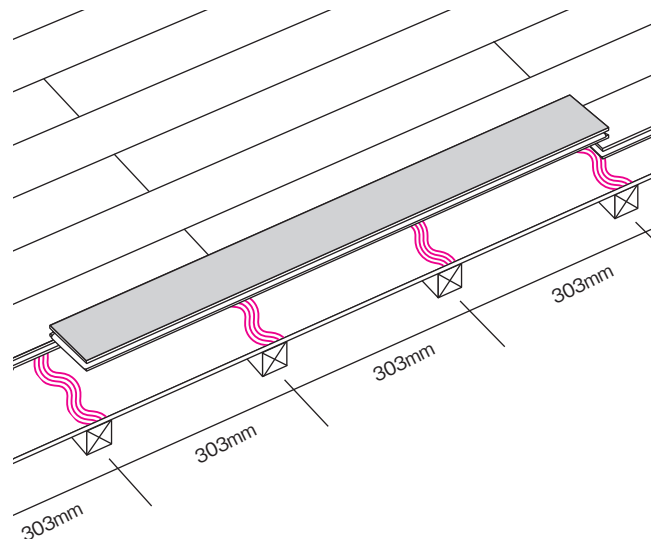
③ 接着剤の塗布方法

- ①弊社指定の接着剤を根太上に303mm間隔で塗布してください。
- ②短辺接続部分は両方のフロアー裏面に充分付着するように塗布してください。
※接着剤カートリッジのノズル1口タイプの場合、短辺接続部分には両方のフロアー裏面に充分付着するように2列に塗布してください。
(接着剤の太さ約8mm/本が目安。塗布量:約150g/m²)
※接着剤カートリッジのノズル4口タイプの場合、短辺接続部分には両方のフロアー裏面に充分付着するように塗布してください。
(接着剤の太さ約4mm/本が目安。塗布量:約150g/m²)

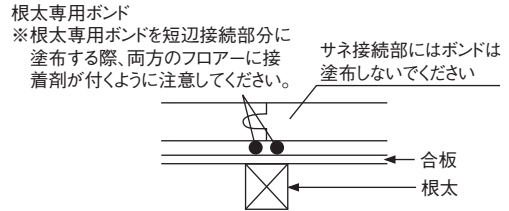
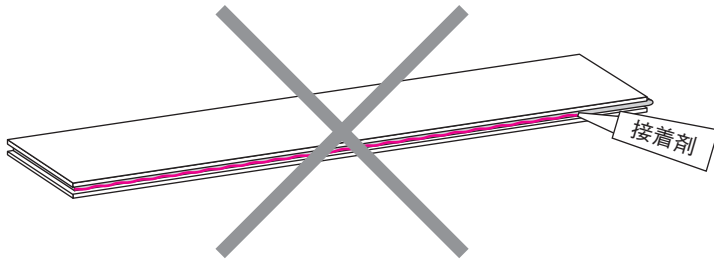
 接着剤 塗布量が8mm/本になるようにノズルの先端をカットしてください。

⚠ 注意

接着剤がフロアーの表面に付着した場合は、乾いた布や、シンナー・アルコールを染みこませた布ですばやく拭き取ってください。接着剤が硬化すると取れなくなります。また、水拭きだと接着剤が表面に残り、ムラや汚れの原因となるおそれがあります。



長辺サネ接続部分へは接着剤を塗布しないでください。

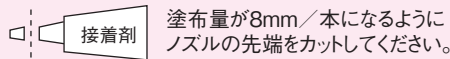


注意

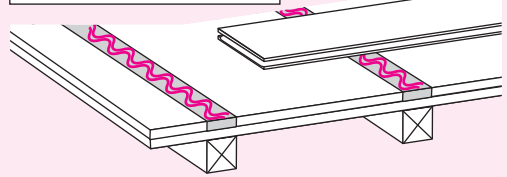
サネ接続部分にボンドを塗布すると、膨張・収縮により床材の割れなどが生じるおそれがあります。

床暖房を施工する場合

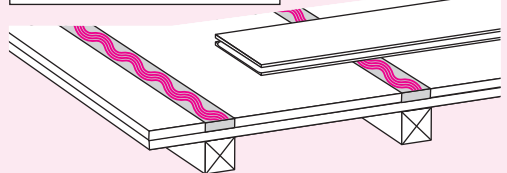
- ①弊社指定の接着剤を小根太上に303mm間隔で塗布してください。
※発熱パネルタイプの場合は釘打ち可能位置に303mm間隔で塗布してください。
- ②短辺接続部分は両方のフローアー裏面に充分付着するように塗布してください。
※接着剤カートリッジのノズル1口タイプの場合、短辺接続部分には両方のフローアー裏面に充分付着するように2列に塗布してください。
(接着剤の太さ約8mm/本が目安。塗布量:約150g/m²)
※接着剤カートリッジのノズル4口タイプの場合、短辺接続部分には両方のフローアー裏面に充分付着するように塗布してください。
(接着剤の太さ約4mm/本が目安。塗布量:約150g/m²)



ノズル1口タイプの場合

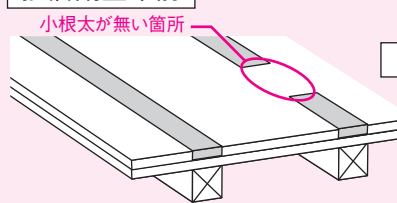


ノズル4口タイプの場合

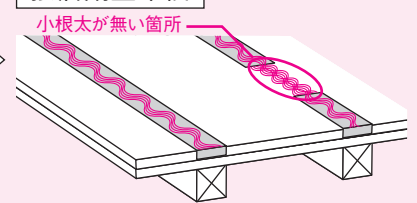


- ③温水パイプ配管コーナー部の小根太がなく釘打ちできない箇所には接着剤塗布量を増やし、フローアーのサネ接続部分を接着剤で確実に固定してください。
※小根太の無い部分にフローアーの接続部ができる限りこないように注意してください。

接着剤塗布前

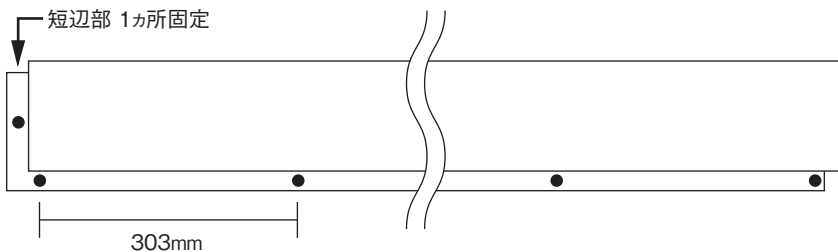
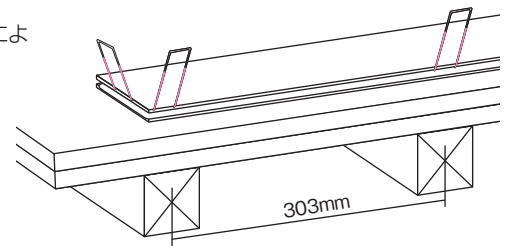


接着剤塗布後



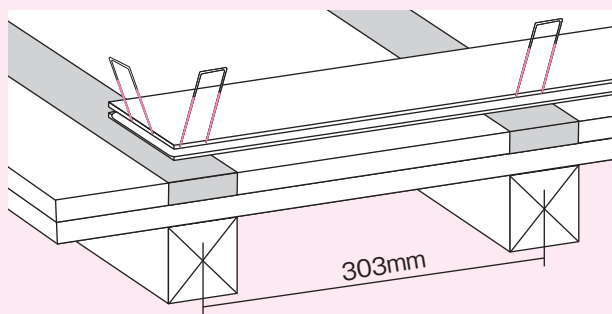
④ 釘打ち

フローアの長辺方向303mmピッチ、短辺方向(エンドマッチ部)1カ所、弊社指定の接着剤付きフローアー用ステーブルもしくは、フローアーネイルを根太上に打ち込んでください。下地への固定はしっかりと行ってください。無垢フローリングは合板突板フローアーより吸放湿による寸法変化が大きく生じます。下地に対して推奨する釘と接着剤でしっかりと固定してください。しっかりと固定することにより、寸法変化を小さく抑えることができます。

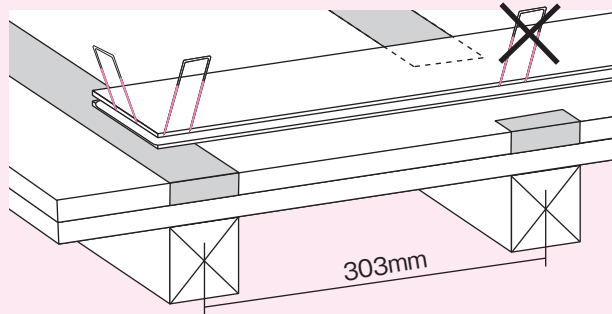


床暖房を施工する場合

※フロアの短辺、長辺のサネ接続は小根太上になることを確認した上でフロア施工を始めてください。
釘打ちはフロアを押さえ、フロアと下地をしっかりと密着させた状態で釘打ちしてください。



フロアの長辺方向303mmピッチ、短辺方向(エンドマッチ部)1カ所、弊社指定の接着剤付きフロア用ステーブルもしくは、フロアネイルを小根太に打ち込んでください。



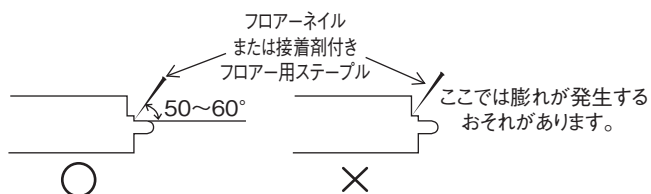
※温水パイプ配管コーナー部の小根太が無い箇所については釘打ち厳禁です。

⚠ 注意

釘(接着剤付きフロア用ステーブルもしくはフロアネイル)打ち込み時、釘の頭がフロアにめり込まないように適正なエア圧を設定してください。釘の頭がめり込んだ場合、適正な釘保持力が確保できません。

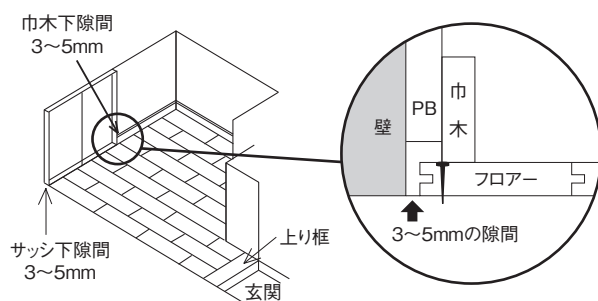
※釘打ち角度は50°~60°で打ち込んでください。これ以外では釘頭が基材を持ち上げ膨れが発生してしまうおそれがありますので特に注意してください。

※レッドオークソリッドバンブーソリッドにはネイルライン加工はありません。



※フロア周辺の壁際およびサッシ下などには必ず3~5mmの隙間をあけてください。
また端部の床材は脳天から釘打ちし、完全に固定させてください。

施工例



※周辺部の納めは必ず隙間を設けるか、コーキング処理してください。
吸湿時にフローリングが膨張して不具合が生じるおそれがあります。

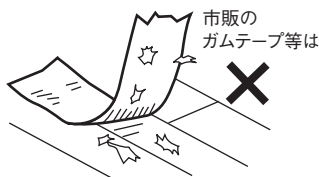


⑤ 梅雨時期の湿度対策

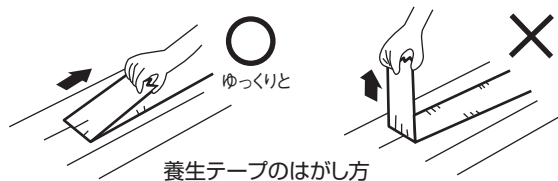
● 施工現場にて開梱後は速やかに、施工してください。開梱後の製品吸湿には十分注意して施工をお願いします。

⑥ 養生

● 施工後は、木屑や砂、ごみをきれいに取り除いてダンボール、ベニヤまたは養生カバー等で隙間なくカバーしてください。市販のガムテープや粘着力の強い養生テープをご使用になりますと、塗膜の剥がれの原因になりますので、別売の養生テープ(ZY0211)をご使用ください。なお、養生に使う段ボールや、ボードは濡れていないことを確認するとともに、濡れないような配慮をお願いします。



● 養生テープを取り除く際は、テープを床面と垂直にしながら剥がすと、製品表面の塗膜剥離をおこすおそれがありますので、テープを床面と平行にしながら、ゆっくりと剥がしてください。



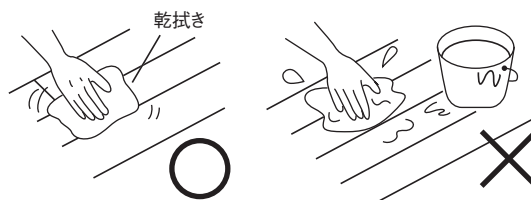
⚠ 注意

フロア施工後、接着剤が硬化するまで(1週間以上)、絶対に床暖房および暖房機器の使用は避けてください。
フロアのサネ接続部の隙間発生などの原因となるおそれがあります。

3 施工終了後

汚れ落とし

ほこり、小さな汚れを乾いた布で乾拭きしてください。水拭きを行うと長期の間に割れが発生することがありますので、避けてください。ただし、汚れのひどい場合は、水で薄めた中性洗剤を含ませた雑巾を固く絞ってから拭いてください。



美装業者様におかれましては、下記の点およびワックス塗布の注意事項について十分注意して作業してください。

※フローリング表面に、水や洗剤を撒き散らさないでください。変色や、床材の変形(膨れ)の原因になります。

※ポリッシャーには柔らかいノットをご使用ください。表面のキズの原因になります。

※自然塗装製品には水は絶対に使用しないでください。毛羽立ち、白化、シミ等の原因となるおそれがあります。

通常塗装の場合

抗ウイルス加工商品をご使用の場合、ワックスは塗布しないでください。

ワックスを塗布すると性能が十分に発揮されません。

汚れの拭き取りは適宜行ってください。

以下ワックスのご利用に関する注意事項は、**抗ウイルス加工商品以外**をご使用の場合にお読みください。

ワックス塗布の前に

①ワックスの選定

半年に一度、ワックスによるお手入れを施してください。必ず弊社推奨のワックスをご使用ください。他のワックスはトラブルの原因になります。

無垢フローリングピノアースにはノンブライト、ハイテックフローリングつや消し40がおすすめです。

商品名	推奨ワックス
ピノアース	ハイテックフローリングコートつや消し40、ノンブライト(共にリンレイ)
上記以外	ハイテックフローリングコート(リンレイ)

※**油性ワックス・ロウワックスは絶対に使用しないでください。**(油性ワックスの上に樹脂ワックスを塗布した場合白化することがあります)

※化学雑巾は使用しないでください。(特にワックス塗布直前・塗布後は絶対に使用しないでください)

②天気の良い日を選び、窓を開けましょう

※雨天等で、湿度が極端に高いときは避けてください

※気温が低く床材表面が5℃以下での使用はお控えください

※床暖房用フローリングのお手入れは、床暖房のスイッチを切り、フローリング表面が冷えてから行ってください。床暖房中に作業を行うと、床暖房パネルの故障、フローリング表面のヒビ割れ、変色などの原因となります。

③汚れ落とし

(イ)床面のゴミ・ホコリ等を掃除機を使用して十分に除去してください

(ロ)床用洗剤(「マイペット」、「オール床クリーナー」等)を薄めた液を雑巾に含ませ、強く絞ってから拭いてください。

※施工後の床材の表面には、汚れ・油分が付着しているので、十分に洗浄をしてください。

※洗剤を使用する場合は、予め目立たないところで試験洗いをし異常のないことを確認してください。

※アルカリ性の強い洗剤は使用しないでください。

※**洗剤を、フローリング表面に多量に撒き散らしたり、多量に塗布しないでください。**

※スプレータイプの床用洗剤の場合は、雑巾に洗剤をスプレーして拭いてください。

(ハ)水を含ませ、強く絞った雑巾で**洗剤を完全に拭き取ってください。**

※洗剤の成分が床面に残るとワックスの密着が悪くなります。

※床材の目地にも洗剤分が残らないようにきれいに拭き取ってください。

ワックスの塗布

①床が完全に乾いたら、きれいな雑巾にワックスを含ませ、木目に沿って**薄くムラ無く均一**に塗ってください。

※雑巾は汚れ落とし用とは別のものを使用してください。

※ワックスを十分に攪拌してください。

※フローリング表面に**撒き散らして塗布せず、また塗りすぎないでください。**

※床材の目地に、樹脂ワックスが溜まらないように注意してください。

※重ね塗りの場合、**前に塗ったワックスを必ず乾かしてから塗布してください。**

②乾燥するまで、ワックスを塗ったところを歩かないでください。



ご使用において

※ワックスは床材を保護しメンテナンスが容易にできる反面、塗料に比べ柔らかい性質のためご使用において、すり傷状に見えたり、光沢がおちてくる場合があります。スリッパの底面はきれいにし、また重量物や椅子などを引きずらないようご注意ください。

※水がこぼれて、そのまま放置したり濡れた足で歩くと、白化したり剥がれる原因になります。すぐに乾いた雑巾で拭き取ってください。

フリーワックス製品に関して

フリーワックス製品に関してはワックス塗布は必要ありません。汚れや薬品による汚染、変色が発生しにくく、傷がつきにくい性能を有しています。(お客様の希望によりワックス塗布は可能ですが、化粧表面はワックスの塗布性能となります)

⚠ 注意

ワックスは使用を誤ると、べつつきたり白化や粉化、変色、密着不良などの異常を起こす場合があります。必ず※印の注意事項を遵守してお手入れしてください。

ワックス剥離剤は製品の美観および品質をそこないます。絶対に使用しないでください。

※濃色系の床材は光沢の加減でワックスの擦り傷が目立つ場合があります。ご了承ください。

